

看護基礎教育における性に関する学習 セクシュアリティの視点からテキストの記述(陰部洗浄)を分析する

水野昌子* 福田博美**

**公立瀬戸旭看護専門学校

**養護教育講座

A Study Concerning Sexuality in the Basic Nursing Education

An Analysis of Description The Private Parts Washing of Textbook From Sexuality Viewpoint

Masako MIZUNO* and Hiromi FUKUDA**

*Seto- Asahi Nursing college, Seto 489-0058, Japan

**Department of School Nursing and Health Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8524, Japan

はじめに

看護基礎教育の専門領域の基礎看護学においては、日常生活の援助技術で教授される清潔の項目の1つとして陰部洗浄がある。陰部洗浄とは、外陰部、会陰、肛門周囲を洗浄することであるが¹⁾、清潔の意味だけでなく、患者にとっては、恥となる経験でもあり、性的な意味合いをもつ看護行為でもあるため^{2,3)}看護学生が遭遇する患者の性の代表的な場面の一つとなっている⁴⁾。学生もこのことを意識しているものの、臨地実習を実施する前はセクシュアリティに関する問題を避けたいと考えており⁵⁾、臨地実習では男性患者の陰部洗浄を実施することは大きなストレスになっている^{6,7)}。しかし、厚生労働省の示している「臨地実習において看護学生が行う基本的な看護技術の水準」⁸⁾の項目として陰部ケアは水準1(教員や看護師の助言・指導により学生が単独で実施できるもの)となっており、看護基礎教育においてセクシュアリティに配慮した陰部洗浄の技術を修得することは重要であると考えられる。そのため、看護基礎教育において陰部洗浄の技術がセクシュアリティの視点からどのように教授されているかを明らかにすることが必要と考えた。陰部洗浄の技術を教える上でテキストは大切な拠り所となっていることから、テキストの陰部洗浄に記述内容について検討した。

方法

基礎看護技術のテキストの中から2003年から2008年に発行された11点⁹⁻¹⁹⁾を分析対象とした。これらのテキストの中に記載された「陰部洗浄」の内容(目的・意義, 必要物品, 実施方法等)についてセクシュアリティの視点から分析した。

本研究におけるセクシュアリティの視点とは、生物学的な性として形態機能の性差・性反応, 性の認識として羞恥心・性反応に伴う気持ち・性に関する言動とした。

テキストの記述の分析

1. 陰部洗浄はなぜ行うのか

陰部洗浄の目的・意義を表1に示す。身体面に対する目的・意義は11テキスト全てに記載があり、内容は「清潔」と「感染予防」であった。心理面に対する目的・意義は6テキストに記述があり、内容は「爽快感」, 「心地よさと健康」であった。陰部は便や尿, 分泌物などによって汚染され不潔になりやすいため, 「清潔」や「感染予防」の目的で「爽快感」など患者に心理的效果ももたらす意義・目的であった。

表1 テキストの陰部洗浄の目的・意義の記述

()内は記述数

身体面に対する目的・意義	心理面に対する目的・意義
<ul style="list-style-type: none"> ・清潔を保つ(2) ・清潔になる ・身体清潔法 ・清潔法 ・清潔が保てない ・清潔を保ちにくい ・この部位をきれいにする ・不潔になりやすい ・清潔 	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔感や爽快感がえられる ・気分を爽快にする ・爽快感を与える ・爽快感を得る ・安心・安楽な状態で陰部洗浄を受け, 爽快感が得られる
<ul style="list-style-type: none"> ・尿路感染を予防する(3) ・二次感染を予防(2) ・尿路感染症 ・大腸菌の尿道口への侵入を防ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・心地よさと健康

2. セクシュアリティの視点での記述はどのようになされているか

1) 生物学的な性として形態機能の性差・性反応について

形態機能の性差

身体面に対する目的・意義に記述された「清潔」と「感染予防」の理由として、生物学的な性として形態機能の性差が8テキストで記述されていたが、形態機能の性差の記述がないものが3テキストであった(表2)。形態機能の性差の内容としては、「男性の場合は、陰茎と陰囊など面が密着する部分が不潔になりやすい」、「女性の場合は尿道口、膣口、大前庭腺の開口部などが小陰唇、大陰唇、で覆われ、分泌物で常に湿潤している」、「尿道が約4cmと男性(約20cm)に比べて短いため尿路感染症を起こしやすい」、「女性の場合は陰核や小陰唇の脂肪腺から、男性の場合は包皮内面の脂肪腺から、濃いなめらかな分泌物が分泌され恥垢となる」、「女性の場合は月経や膣分泌物などで汚れやすい」ことが記述されていた。このように、男女の外陰部の形態や尿道の形態、男女の機能、女性特有の機能のように形態機能の性差の記述はあったが、性反応の記述はなかった。

形態的な性差を考えると男女の陰部洗浄の方法についての記述は必要であり、10テキストには記述されていた(表2)。記述されていない1テキストは、女性の陰部洗浄方法のみが例として記述され、男性の陰部洗浄の方法についての記述はなかった。また、女性、男性の順序で記述されていたのは8テキスト、男性、女性の順序で記述されていたのは2テキストであり、女性のほうが先に記述されることが多かった。

女性の外陰部の洗い方としては女性の尿道が短く、尿道口が肛門に近いため尿路感染しやすい形態の性差を踏まえ、「前から後ろに向かって洗浄する」ことが全てのテキストに述べられていた。また、尿路感染や膣炎の予防という視点から「大陰唇、小陰唇、膣前庭、会陰」の外から中央の順と「尿道口、小陰唇」の中央から両側への順で洗う逆の2つの方法が記述されていたがその根拠に関する記載はなかった。

男性の陰茎の洗い方としては、包皮を下げて亀頭を露出させることが6テキストに記述されていた。その方法としては「包皮が反転していない場合は包皮を反転させ、亀頭は円をえがくようにして陰茎を洗う」、「臍の方向に向けて洗う」、「陰茎を恥骨部分のほうに倒して陰囊と重なっている部分を洗う」、「陰囊はしわが多いため、陰茎を挙上して別々に洗う」などの記述があった。また、「基部から先端に向かって洗う」と「尿道口、亀頭、包皮、陰茎の体部と根部を洗う」というように逆の方法が1件ずつあったが、その根拠に関する記載はなかった。陰囊の洗浄方法として陰囊の後面を洗浄することが記述されていたのは4テキストで

あった。

表2 テキストの形態機能の性差の記述

<p>意義・目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の陰部ケアの方法の理解 ・陰部は男性と女性で形態が異なるため洗浄の方法も異なる。 ・女性では尿や便のほか膣からの分泌物や月経によって汚れやすく、拭くだけでは清潔を保ちにくい。女性は尿道が約4cmと短いため、陰部が不潔であると尿路感染症を起こしやすい。 ・特に女性の場合は尿や便、膣からの分泌物や月経によって不潔になりやすい。男性の場合も陰茎と陰囊、陰囊と肛門部など2面の接する部分が不潔になりやすい。 ・女性の場合は膣からの分泌物や月経血により清潔を保つことが難しく解剖・生理学的にも尿道の長さが約4cm程度と男性に比較して短いことから尿路感染をきたしやすい。 ・特に女性の場合は月経や膣分泌物などで汚れやすい状況に加えて、尿道が約4cmと男性(約20cm)に比べて短いため尿路感染症を起こしやすい。男性の場合は、陰茎と陰囊など面が密着する部分が不潔になりやすい。 ・女性の場合は尿道口、膣口、大前庭腺の開口部などが小陰唇、大陰唇、で覆われ、分泌物で常に湿潤している。また、女性の場合は陰核や小陰唇の脂肪腺から、男性の場合は包皮内面の脂肪腺から、濃いなめらかな分泌物が分泌され恥垢となる。 ・大腸菌の尿道口への侵入を防ぐため陰部は前(腹側)から肛門部(背側)に向けて拭く。拭く順序は男性の場合、陰茎から陰囊、肛門の順に拭く。女性の場合は、尿道口から膣口、肛門の順に拭く。
<p>洗浄方法</p>	<p><女性の記述></p> <ul style="list-style-type: none"> ・陰唇を十分に開いて洗う。尿路感染を起こさないように前から後ろに向かって(尿道口から肛門の方向へ)洗う。 ・ゴム手袋をして、洗浄液または微温湯などを入れた洗浄ポットをもち陰唇を開くようにして上から下方向に肛門部まで洗浄する。必要時ガーゼを用いて洗浄する。 ・尿路感染防止のため前から後ろへ洗浄する。 ・尿路感染防止のため尿道口から肛門に向かって拭く。ゴム手袋をしてガーゼを1~2枚もち、もう一方の手でピッチャーでお湯をゆっくり恥骨部分から注ぎ尿道口から肛門部に向かって洗う。皺壁間の恥垢を洗い流す。ガーゼを換えて数回繰り返す。必要時石鹸を使う。 ・大陰唇を開いて中央から周囲を上(腹側)から下(背側)に洗う。片手で会陰部を開きもう一方の手でガーゼをもって恥骨から肛門 左大陰唇 右大陰唇 と同じ場所を十分に拭く。中心部は二度拭きする。 ~ は腹側から背部へ向かって拭くこと。二面の接する部分(陰茎と陰囊、陰囊と肛門部、陰唇)は不潔になりやすいので、丁寧に洗う。 ・尿路感染や性器への感染を防止するため尿道口の部分から肛門の方向に向かって拭く。2面の接している部分は(陰唇、陰茎と陰囊、肛門など)に汚れが残らないようにする。洗い方は陰部洗浄用

洗 浄 方 法	<p>(ビデ)のスイッチを押して女性は尿道口 陰唇、次に肛門洗浄用のスイッチを押して、肛門部を洗い流す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膣からの分泌物や月経血により清潔を保つことが難しく解剖・生理学的にも尿道の長さが約4 cm程度と男性に比較して短いことから尿路感染をきたしやすい。女性は陰唇を開いて洗浄し、恥丘～肛門にかけて洗う。 ・ガーゼを手に持ち他方の手で大陰唇を開き尿道口、小陰唇を上から下に向かって中央から両側の順で洗う。尿道口から肛門部に向かって上から下に洗うのは肛門周辺の大腸菌などによる尿路感染、膣炎を予防するためである。中央から両側の順で洗っていくのは尿道、膣など感染の恐れのある部位をもっとも清潔に保つ必要があるため最初に尿道、膣を汚れのついてないガーゼで洗う。 ・大陰唇、小陰唇、膣前庭、会陰の順に拭く。上から下へ拭きおろす。 <p>< 男性の記述 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・陰茎と陰嚢を先に洗う。 ・包皮が反転していない場合は包皮を反転させ、亀頭は円をえがくようにして陰茎を洗う。陰嚢はしわが多いため、陰茎を挙上して別々に洗う。 ・陰茎を手で支持し他方の手で尿道口、亀頭、包皮(包皮は皮膚をずらして洗う)、陰茎の体部と根部を洗う。包皮と亀頭との間に貯留する恥垢は包皮内面を不潔にし、包皮炎、亀頭炎の原因となるため皮膚をずらしながら汚れを取り除く。 ・皮膚が接している場所に汚れが残らないように洗う。陰茎は臍の方向に向けて洗う。亀頭は包皮をずらして洗う。 ・男性では包皮を反転させて、亀頭と包皮内部を洗う。陰嚢の裏側と会陰部は陰嚢を持ち上げて丁寧に洗う。 ・ゴム手袋をしてガーゼに石鹸をつけ恥骨部分、陰茎を洗う。陰茎を恥骨部分のほうに倒して陰嚢と重なっている部分を洗い、最後に陰嚢の後面を洗う。 ・陰茎を軽く支えながら裏側を洗い、亀頭部分も包皮を下げて洗う。 ・ゴム手袋をして洗浄液または微温湯などを入れた洗浄ポットを用いて陰茎、陰嚢を洗浄する。ガーゼまたはウォッシュクロスを用いてペニスを持ち上げ、基部から先端に向かって洗う。包皮をずらして洗浄する。陰嚢は持ち上げて陰嚢の部分から肛門部まで洗浄する。手袋をしたりタオルなどで間接的に触れることで勃起しないように配慮する。
------------------	--

に配慮」と記述されていた。

看護者が陰部洗浄時に手袋を使用することを記述しているのは10テキストであった。その目的として男性性器に間接的に触れることで勃起しないための配慮と感染予防が記載されているものは先の1テキストのみであり、感染予防として手袋を使用することが記述されていたものが3テキストであり、他の6テキストは手袋を使用する理由について言及されていなかった。

また、陰部の洗浄方法については「粘膜を傷つけないよう拭く力を加減する」、「石鹸をガーゼ上で泡立てて柔らかく洗う」、「ガーゼで陰部を洗うときには皮膚・粘膜を傷つけないよう圧を加減し静かに行う」、「皮膚・粘膜共に傷つきやすい部分であり刺激が強いのので強く擦らないようにする」、「二面の接する部分(陰茎と陰嚢、陰嚢と肛門部)は不潔になりやすいので、丁寧に洗う」、「陰嚢を持ち上げて丁寧に洗う」、「包皮を下げて手早く洗う」があり、力加減や速さなど性反応に関する配慮事項にもつながる表現もあった(表3)。ただし、丁寧に、柔らかく、静かに行うことで性反応を引き起こす可能性があるがそのことへの言及はなかった。

表3 テキストの陰部の洗い方の記述

<ul style="list-style-type: none"> ・石鹸をガーゼ上で泡立てて柔らかく洗う。 ・会陰部は陰嚢を持ち上げて丁寧に洗う。 ・二面の接する部分(陰茎と陰嚢、陰嚢と肛門部)は不潔になりやすいので、丁寧に洗う。 ・皮膚・粘膜共に傷つきやすい部分であり刺激が強いのので強く擦らないようにする。 ・粘膜を傷つけないよう拭く力を加減する。 ・亀頭は円をえがくようにして陰茎を洗う。 ・ガーゼで陰部を洗うときには皮膚・粘膜を傷つけないよう圧を加減し静かに行う。 ・包皮と亀頭との間に貯留する恥垢は包皮内面を不潔にし、包皮炎、亀頭炎の原因となるため皮膚をずらしながら汚れを取り除く。 ・包皮を下げて手早く洗う。 ・陰茎を軽く支えながら裏側を洗う。
--

性反応

性反応については、男性の勃起に言及したテキストは2つだけであり、女性の性反応の記述はなかった。その内容は「少年や成年男子では陰部のケアによって性的な反応が引き出され困惑することもある」と記述されているものの、それに対応する具体的な看護方法は、このテキストには記述がなかった。しかし、もう一方のテキストに「勃起しないように配慮する(会話をしながら実施し、注意を逸らすなど)」、「手袋をしたりタオルなどで間接的に触れることで勃起しないよう

2) 性の認識として性反応に伴う気持ち・性に関する

言動・羞恥心の記述はどのようになされているか
性反応に伴う気持ち

性反応のところにも記述したが、性反応に伴う気持ちの記述は「少年や成年男子では陰部のケアによって性的な反応が引き出され困惑することもある」のみであった。またそれに対する対応の記述はなかった。

性に関する言動

性に関する言動についての記述は「他人からの援助

を受けることに抵抗を示す人も少なくない」、「日本女性の羞恥心の強さは、疾病の回復に必要な多くの処置を妨げるほどである」、「患者は陰部のこととなると言い出しにくく遠慮がちになる」と2テキストに3記述あり、性に関しての援助に抵抗を示したり処置の妨げをしたりという行動や言い出しにくいという言動が記述されていた。

性に関する言動への対応は「看護者が積極的に陰部清潔の必要性と、その基礎原理を説明し清拭法や洗浄法についてよく説明し、患者がためらうことなく、実施できるようにすることが大切である。」「術者がこのケアを恥ずかしながら、職業的な態度で患者を納得させることが必要であり毅然とした態度で接することである」といった患者への説明と看護者の態度での対応であった。

羞恥心

「羞恥心」の記述は7テキストにあり、「羞恥心」がなぜ起こるのかの理由としては「陰部を露出することには強い羞恥心を伴う」、「外陰部は羞恥心を伴う部位である」、「部位的に対象者の羞恥心にも配慮」などといった部位の露出による羞恥心が記述されていた(表4)。

表4 テキストの羞恥心の記述

<ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心にも配慮して清潔を保つ ・羞恥心への配慮 ・羞恥心に配慮する ・部位的に対象者の羞恥心にも配慮 ・外陰部は羞恥心の伴う部位である ・陰部を露出することには強い羞恥心を伴う ・陰部は特に羞恥心を伴う身体部位 ・陰部の処置は羞恥心を伴う ・陰部洗浄は患者にとって爽快がえられるケアであると同時に羞恥心も増大させたり自尊感情が脅かされるケアでもある ・丁寧に説明して患者の理解を得る その際、羞恥心を起こさないよう配慮する ・羞恥心を起こさせないようナースの態度に注意する ・羞恥心の強い部位であるので、できれば同性の看護者が、自分でできる場合はやってもらう。 ・ゴム手袋はナースの指が外陰部に直接接触れることへの患者の羞恥心を防ぐ

陰部が露出されるため起こる羞恥心に対しては「両下肢の露出する部分を羞恥心に配慮してバスタオルで覆う」、「不必要な露出をしないように掛け物やバスタオルを用いておおう」、「カーテンやスクリーンでプライバシーを保つ。両下肢を別々に覆い洗浄時は陰部だ

けが露出するようにする」のように不必要な露出をしない対応が記述されていた。実際に、表5に示すように全てのテキストの必要物品にバスタオルが記述しており、下肢を覆う手順が示されていた。

また、「援助の必要性、方法などを事前に説明し同意を得て行う」、「実施前に説明し同意を得る」、「陰部洗浄について説明し、実施することの同意を得る」のように説明して同意を得ることで羞恥心を緩和する方法とともに「術者がこのケアを恥ずかしながら、職業的な態度で患者を納得させることが必要であり毅然とした態度で接することである」のように実施者の職業的な態度で説き伏せるといった方法も示されていた。

さらに、実施者を看護師に限定しない方法として、「羞恥心の強い部位であるので、できれば同性の看護者が、自分でできる場合はやってもらう」、「どうしても自分で行うことが不可能な場合以外はいろいろと工夫をして自分でできるよう援助することが大切である」、「必要に応じて家族に指導し家族が実施することも考える」が示されていた。また、「移動が可能な患者の場合は、ポータブル便器で座位で行ったり、浴室で洗面器を用いて座浴として行っても良い」、「歩行や車椅子でトイレに行ける場合は洋式便器に洗浄装置があればこれを利用する」という場所の工夫が記述してあるテキストは3テキストあった。そのうち座位での洗浄方法について記述があるのは2テキストであり、「実施者は対象者が介助を必要とする部分について援助する」と具体的な方法の記述がないものと洗浄装置の使用方法を中心に記述した「介助を要する場合には、(省略)ナースはゴム手袋をはめ、片手にガーゼを2~3枚持って洗い流す」、「洗いは、陰部洗浄用の(ビデ)のスイッチを押して、女性は尿道口 陰唇、男性は陰茎と陰嚢を先に洗う」と具体的なっているものの男性の場合はビデでは陰茎と陰嚢の前面の洗浄が不可能な記述であった。

他にも、羞恥心が起こる理由では、陰部を洗うことを周囲の人に気づかれるということへの羞恥心もあるであろう。それについては「丁寧に説明して患者の理解を得る。その際、羞恥心を起こさないよう配慮する」と、記述が1テキストあったが、具体的な方法の記述はなかった。また「陰部に温湯をかけた刺激で尿意を生じることがある。患者が安心安楽な状態で陰部洗浄を受けられるためにも排尿の有無を必ず確認し必要時は排尿を促し、済ませておく」のように、陰部洗浄実施前の排尿確認は尿失禁による羞恥心を緩和させることになる。

陰部は「会陰部にはアポクリン腺が多く分布する。アポクリン腺はエクリン腺より大きく汗孔は毛包に開口している。分泌物にはエクリン腺の成分に加えて脂肪酸やたんぱく質が含まれる。この分泌物にはおいはないが皮膚表面の細菌がその分泌物を栄養に繁殖し

むっとする不快なおいを発生することがある」といった臭気を発する部位という特徴がある。臭気を発している陰部を洗浄されることは羞恥心を引きおこすことにつながる。しかし、臭気が取り除かれ汚染状態から清潔になることで、爽快感を感じ、羞恥心から開放される。ゆえに、洗浄方法は羞恥心から爽快感に変えるために重要であると考えるので、ここで洗浄に用いる使用物品を検討する(表5)。

使用物品には、洗浄容器、湯(湯温、湯量)、洗浄液、石けんが記述されていた。容器は、洗浄用ボトルやシャワーボトルなど専用の容器は8テキスト、ピッチャーは4テキストであり、このうち専用容器とピッチャーの2つの記述があるのは2テキストであった。それ以外としては使用済みの洗剤容器、空になったシャンプー容器、イリゲータ、点滴ボトルがあり、1テキストは全く記述がなかった。湯温は、38~39 が3テキスト、38~40 と体温程度の微温湯が2テキスト、体温よりやや高め(38)と37~39 が1テキスト、温湯の温度の記述のないものが2テキストであった。湯量は、7テキストには記述がなく、4テストに記述があり、1000~1500mlが2テキスト、500mlと1500mlがそれぞれ1テキストであった。洗浄液が記述されているものが2テキストであり、具体的に種類が記述されていたのは1テキストであり、0.5%~1%クレゾール石鹼液、0.5%逆性石鹼液、スキナクリーン、スキナベープがあげられていた。物品の中にせっけんが記述されているのが8テキストであったが、手順の中に石けんがあげられているのを含めると9テキストであった。石けんにも洗浄液にもまったく触れていないものは1テキストであった。以上のようにピッチャーが洗浄容器に38 程度のお湯を入れ石けんを用いるというのが使用物品であった。石鹼分や汚れを洗い流すお湯の量の指定は4テキストと少なかった。

また、陰部洗浄の実施頻度は「全身清拭の一環として実施する」、「分泌物や排泄物により陰部が汚染されたときはそのたびに洗浄する必要がある」、「清拭時または排便後に外陰部洗浄を行いたい」、「毎日1回は必ず行い、陰部が特殊な状態にある場合や、汚染の状態によっては必要に応じて頻回に行う。」のようにほぼ毎日1回若しくは排便毎に実施されるという記述であった。

表5 テキストの羞恥心への配慮に関する使用物品
()内は記述数

バスタオル	記述あり (11) 記述なし (0)
洗浄容器	・洗浄用ボトル (2) ・陰部洗浄用ボトル

洗浄容器	・陰部洗浄用ポット ・陰部洗浄容器(替わりに、イリゲータ、空になったシャンプー容器や点滴ボトル) ・ピッチャー ・小ピッチャー ・ピッチャー(または洗浄ボトル) ・シャワーボトルまたはピッチャー(小) ・ピッチャーまたは洗浄用具(市販の洗浄用具や使用済みの洗剤容器) ・記述なし(1)
湯温	・体温程度の微温湯(2) ・37~39(1) ・体温よりやや高め(38)(1) ・38~39(3) ・38~40(2) ・記述なし(2)
湯量	・500ml(1) ・1000~1500ml(2) ・1500ml(1) ・記述なし(7)
洗浄液	・記述あり(2) 但し、具体的に種類が記述されていたのは1テキストであり、0.5%~1%クレゾール石鹼液、0.5%逆性石鹼液、スキナクリーン、スキナベープ ・温湯のみ(9)
石けん	・記述あり(9) ・記述なし(2)

陰部洗浄におけるセクシュアリティとは

1. 生物学的な性: 形態機能の性差・性反応について

陰部洗浄は、便や尿、分泌物などによって汚染された不潔な外陰部、会陰、肛門周囲を洗浄することである。ゆえに、ほとんどのテキストに形態機能の性差に着目した清潔・感染防止の視点からの洗浄方法は記述されていた。その記述順序は、多くのテキストで最初に女性の陰部洗浄の方法が記述され、1テキストにおいては男性の洗浄方法の記述がないといった女性中心の記述になっていた。これは、看護学生の多くは女性のため、同性の女性から学ぶほうが学習しやすいという配慮とも考えられる。また、感染予防の看護が重視され陰部洗浄の目的にも尿路感染予防が取り上げられていることから、より尿路感染をおこしやすい尿道が短い女性の洗浄方法が先に挙げられているのではないかと考えられる。しかし、陰部洗浄と尿路感染の発生の因果関係を示した論文のテキストへの参照はなく、この女性中心の記述の真意は定かではない。

性反応については、男性の勃起に触れていたのは2テキストであり、性反応についての記述が少ないこと

は明らかであった。また、それに対応する方法としては、会話をしながら実施し注意を逸らす、手袋をしたリタオルなどで間接的に触れることの2点に留まり、具体的にどのような会話をすることが効果的であるのかについては示されていないため、テキストのみでは実施することは難しいのではなかろうか。また、陰部の洗浄方法について力加減や速さなどについての記述はあったが、性反応を引きおこす可能性があることを明記した内容ではなかった。そのため、テキストのように学生が性反応についての知識がないままに丁寧にゆっくりと患者の陰部洗浄を実施すれば、過剰に性反応を引きおこすこともある²⁰⁾。テキストとしては、性反応の機序の知識を土台にした具体的な陰部洗浄の方法が明記されることが必要と考える。

2) 性の認識: 性反応に伴う気持ち・性に関する言動・羞恥心

陰部洗浄の記述で羞恥心は7テキストにあり、羞恥心に配慮しなければならないということは学生もわかる。しかし、羞恥心への配慮の方法は、事前に説明し同意を得ること、不必要な露出を避けること、看護師が毅然とした態度で接すること、実施者の選択の4つでよいのであろうか。なぜ羞恥心が起こりどのように配慮すれば羞恥心が緩和もしくは解消されるかの記述が少ないことから、羞恥心への配慮を具体的に指導するためには教員は補足しながらテキストを説明する必要がある。今回も、臭気や尿失禁など類推しながら羞恥心に関わる項目を拾い上げることとなった。

また、性に関する言動として陰部洗浄の援助に抵抗を示し、妨げをするという行動や言い出しにくいという記述があり、その対応方法は患者への説明と看護師の態度での対応であった。けれども、陰部洗浄は直接性器に触れる援助であり患者と看護師の距離が接近することから、患者は看護師の身体に触れたり、言語を通して性への欲求を率直にぶつけたりといったセクシュアルハラスメントに近い言動を患者が表出する場合もある。また、性反応に伴う気持ちについては困惑のみで、その対応方法についての記述もなかったことから、テキストの記述のみでは性反応に伴う患者の心理を理解することは難しく、その場面に遭遇しても適切な対応はできないことが十分に予測できる。性反応と同様にこれらのことに対応するためには、具体的な技術が記述される必要がある。

さらに、患者の性に関する言動に遭遇した場合、看護師自身も困惑するケースが多く、2007年の調査でも実施学生に「あっ、やばい、どうしようかな」といった困惑があった²¹⁾。これが困惑だけに留まらずトラウマになり男性患者の清潔援助全般ができなくなり看護師に向いていないという看護観を形成してしまう事例もある²²⁾。それとは逆に「性についてのケアの必要を認

識した」ことがある看護師はセクシュアリティについて liberal な態度を示せるようになる²³⁾。それゆえ、学生への対応として、陰部洗浄の実施中セクシュアリティに関する事で困ったことがあれば教員や臨床指導者に交代し、終了後に技術的な指導と心理的なフォローを受けることまで言及したテキストが必要であろう。

・おわりに

過去5年間に発行された基礎看護学のテキスト11冊の陰部洗浄の記述を分析した。セクシュアリティに関して、形態機能の記述は8テキストにあり、それに基づいた洗浄方法が記述されていた。しかし、その他の性反応や性の認識に関するセクシュアリティの記述は少なくまた、具体的な対応まで示したものはさらに少なかった。今後、セクシュアリティの視点を入れたテキストが出版されることを期待したい。

引用・参考文献

- 1) 日本看護科学学会第6期・7期看護学術用語検討委員会編：看護行為用語分類，110，日本看護協会出版会，2005
- 2) 川野雅資，武田敏：看護と性 ヒューマンセクシュアリティの視点から，29-30，看護の科学社，東京，1998．
- 3) Wood．N．Human Sexuality in Health and Illness，稲岡文昭，小玉香津子他訳，ヒューマンセクシュアリティ，臨床看護篇，日本看護協会，東京，214-215，1993
- 4) 水野昌子，福田博美：看護基礎教育における性に関する学習セクシュアリティの授業の効果，愛知教育大学研究報告，57（教育科学編），55-59，2008
- 5) 水野昌子：看護基礎教育過程におけるセクシュアリティ教育に関する検討，28-30，2006，愛知教育大学修士論文未発表
- 6) 前掲2)
- 7) 水野昌子，福田博美：看護基礎教育における性に関する学習男性患者の陰部洗浄に関する指導方法の検討，愛知教育大学研究報告，56（教育科学編），53-58，2007
- 8) 看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書，2003．3．17，厚生労働省医政局看護課長通達
- 9) 志自岐康子，松尾ミヨ子ほか編：ナーシング・グラフィカ18基礎看護学基礎看護技術，メディカ出版，第2版2刷，2008
- 10) 深井喜代子編：新体系看護学全書12基礎看護学3基礎看護技術，メヂカルフレンド社，第1版3刷，2008
- 11) 坪井良子，松田たみ子編：考える基礎看護技術 看護技術の実際，ヌーヴェルヒロカワ，第2版4刷，2008
- 12) 石井範子，安部テル子編：イラストでわかる基礎看護技術，日本看護協会出版会，第1版第5刷，2008
- 13) 氏家幸子，阿層洋子ほか：基礎看護技術1，医学書院，第6版2刷，2006
- 14) 藤崎郁ほか編：系統看護学講座専門3基礎看護技術 基礎看護学 [3]，医学書院，第14版5刷，2008
- 15) 三上れつ，小松万喜子編：演習・実習に役立つ基礎看護技術根拠に基づいた実践をめざして，ヌーヴェルヒロカワ，第3版1刷，2008
- 16) 小島照子，藤原奈佳子編：看護系標準教科書 基礎看護学技術編，Ohmsha，第1版，2007
- 17) 太陽好子，菊井和子編：新基礎看護学，ふくろう出版，第2

看護基礎教育における性に関する学習

- 版, 2006
- 18) 杉野佳江編: 基礎看護学 2 基礎看護技術, 金原出版, 第 5 版, 2003
- 19) 深井喜代子, 前田ひとみ編: 基礎看護学テキスト EBN 志向の看護実践 Evidence Based Nursing, 南江堂, 2006
- 20) 前掲 7)
- 21) 前掲 7)
- 22) 北出千春, 西田絵美他 2 名: 臨地実習におけるセクシャルハラスメント体験と問題の分析 学生の 1 事例を通して, 看護教育, 46 (12), 1070-1074, 2005
- 23) 朝倉京子, 看護職者の「セクシュアリティに対する態度」に影響を与える要因, 看護研究, 36 (6), 500-516, 2003 (2008年 9 月 17 日受理)